

ハッピー子育てひろば



みなさん、こんにちは。香川大学医学部の鈴木です。
例外的に短い夏休みでしたね。子どもたちは日ごろの疲れを癒し、少しでも気分転換することができたでしょうか？前回は「積極的に学べる環境作り」についてお話ししました。夏休みを過ごす中で、お子さんの好きなことや得意なことを発見できたでしょうか。関心事に対して何か前向きな言葉かけができたでしょうか。

☆プロフィール☆
鈴木 裕美 (すずき ひろみ)
香川大学医学部 小児科専門医

今回お届けするのは、
③ 一貫した、
わかりやすいしつけ
です。

大切にしてほしい「子育て5原則」



- ① 安全・安心して過ごせる環境作り
- ② 積極的に学べる環境作り
- ③ 一貫した、わかりやすいしつけ
- ④ 適切な期待感をもつ
- ⑤ 親としての自分を大切にする

一貫するとはいつも同じということです。しつけは親の機嫌や都合に左右されない、基準が変わらないことが大事です。

いつも同じであることが、子どもに安心感を与えます。そうすれば、いいと言ってくれるまで大騒ぎしたり、ふてくされたりする「試し行動」をしなくなります。すぐにはなくならないかもしれませんが、負けてはいけません。

親が一貫して毅然(きぜん)としましょう。

そのために①

家族でよく話し合って、ルールを決めること。守れなかったらどうするかも考えておきましょう。
例えば、挨拶・玄関の靴そろえ・テレビを見るやゲームをする時間・寝る時間です。
大事なことは、**大人もルールを守る**ということです。

そのために②

実際にはしない『脅し』を言わないことです。
「宿題が終わらないと、食事に連れて行かないよ。」「片付けないなら、おもちゃを捨てちゃうよ。」etc
自分をおいて出かけないことや、高価なおもちゃを捨てないことを子どもは知っています。



子育ては「自動車教習所」に似ているなと思います。教習所の先生は隣に座って、教習所内で運転のルールや技術を教えてくれます。公道で運転するようになった時、事故を起こさないように、同じルールを一貫して教えてくれます。いつも隣で見守ってくれるので、安心して練習できます。もし、先生によって言うことが違っていたら、混乱して運転が上達しないでしょう。

また、先生は失敗しても怒りませんね。それどころか、縁石に乗り上げたり、S字カーブを失敗したりするのを黙って見ています。それが学びだとわかっているからです。その後、どうすればうまくいくか教え、できるまで繰り返させます。これは子育てでもまったく同じです。先生があなたで、生徒は子どもです。目標は、あなたが助手席から降りて、子どもが外の世界で自分の意思で上手に運転できるようになることです。そのために今、教習所【家庭】でルールをしっかり教え、自分のことは自分でできるように生活の技術を教え、公道【学校や社会】に送り出しましょう。そして、安心して助手席から降りましょう。

近い将来、子どもが、あなたというガソリンスタンドに立ち寄った時、「大丈夫だよ。」「よく頑張ったね。」という言葉のエネルギーをチャージしてあげられるように。